メッセージ　4

イサクをささげて、神が死人に命を与える方であることを経験する

聖書：創 22:1-18．ヘブル 11:17-19．ローマ 4:17

Ⅰ．神はアブラハムを試し、彼のひとり子イサクを連れて行って全焼のささげ物としてささげるようにと指示しました――創 22:1-2：

A．ベエル・シバでの生活は、神へとささげられる全焼のささげ物（イサク）を生み出します：

1．イサクの生活の源は、彼を全焼のささげ物としました。すなわち、神の満足のために神へとささげられた人としました――2，7-9 節：

a．「全焼のささげ物」のヘブル語は、文字どおりには「上って行くもの」を意味し、神に立ち上るものを指します――レビ 1:3，フットノート 1。

b．全焼のささげ物が予表するキリストは、おもに人を罪から贖うことにおけるキリストではなく、神のために、また神の満足のために完全で絶対的な生活をすることにおけるキリストであり、また神の民にそのような生活をさせることを可能にする命であることにおけるキリストです――9 節．ヨハネ 5:19,30．6:38．7:18．8:29．14:24．Ⅱコリント 5:15．ガラテヤ 2:19-20。

c．全焼のささげ物は神の食物であって、神がそれを享受し、満足するためです――民 28:2。

2．正常な召会生活は、全焼のささげ物を生み出します――レビ 1:1-2．ローマ 12:1-2：

a．ベエル・シバにおいて生活し、成長し、エホバ、エル・オラムの御名を呼び求めることはすべて、全焼のささげ物を生み出すためです――創 21:33．22:1-2。

b．わたしたちが召会生活の中にとどまればとどまるほど、ますますそれはわたしたちをベエル・シバからモリヤへともたらします。

B．わたしたちはアブラハムと同じように、神がわたしたちに与えてくださったものを神へとささげ返す学課を学ぶ必要があります――1-18 節．ローマ 11:36：

1．イサクに関するあらゆることは、神から出ており、神によるものでした。神は、アブラハムがイサクを全焼のささげ物として神へとささげ返すことを要求しました――創 22:1-2。

2．イサクは、約束された子孫であるキリストの予表であり（ガラテヤ 3:16）、神によってアブラハムに与えられました。しかし神は、神がアブラハムに与えたものを神に返すようにとアブラハムに求めました。これは確かに、アブラハムにとって試されることでした――創 22:1．ヘブル 11:17。

3．ここにわたしたちは、神のエコノミーにおける一つの基本的な原則を見ます。すなわち、神がわたしたちに与えてくださったすべてのものは、神がわたしたちの中へと造り込んだものや、わたしたちを通して造り込んだものでさえ、最終的には神へとささげ返されなければなりません。それはわたしたちが信仰の生活をして、どのようなものにもしがみつかず、神によって与えられたものにさえしがみつかず、神にだけ信頼するためです。

4．神の最高の要求は、神がわたしたちに与えてくださったものを神へと返すことで

す。

Ⅱ．創世記第 22 章 1 節から 18 節においてわたしたちは、アブラハムの信仰の従順を見ます――ヘブル 11:17-19：

A．アブラハムは自分の観念にしたがってどのような事をも開始せず、あるいは、どのような事をも行ないませんでした。

B．アブラハムの中へと注入された信仰は、彼をモリヤの山（シオンの山の別名）へともたらし、彼がイサクを全焼のささげ物としてささげることができるようにしました――創 22:1-2．歴代下 3:1。

Ⅲ．アブラハムは、自分がイサクをささげた場所を「エホバ・エレ」と呼びました――創 22:14：

A．モリヤは、「ヤハのビジョン」、すなわち、エホバのビジョンを意味します。モリヤの山で、アブラハムは神を見て、神もアブラハムを見ました――2 節。

B．14 節後半は、「エホバの山に備えがある」、あるいは、「エホバの山に彼が見られる」とも訳すことができます：

1．モリヤの山で、アブラハムは神の備えを経験し、はっきりとしたビジョンを受けました。

2．神の備えは、神のビジョンと共にあります。ですから、わたしたちは神の備えを享受するときはいつも、ビジョンを持ち、その中でわたしたちは神を見て、神もわたしたちを見ます。

C．今日、神の備えは召会生活の中にあります。召会生活においてわたしたちは、満ち満ちた備えとはっきりとしたビジョンを持ちます。

D．主の回復の中で、わたしたちはモリヤの山へと上って行き、そこにおいてわたしたちのイサクをささげ、神の備えを享受し、透明なビジョンを持ちます。

Ⅳ．イサクはささげられた後、神の定められた御旨を成就するために、復活の中で戻されました――創 22:16-18．**ヘブル** 11:17-19．**ローマ** 4:17：

A．アブラハムはイサクを戻されたとき、神が死人に命を与える方、すなわち、復活の神であることを信じ、経験しました――ヘブル 11:17-19．ローマ 4:17．Ⅱコリント 1:9。

B．イサクは復活の中で戻されたとき、もはや天然のイサクではなく、復活したイサクでした。

C．イサクはささげられた後、復活の中でアブラハムへと戻され、祝福となりました――創 22:16-18。

D．わたしたちの命の中のあらゆる事は、死という最終のテストを経過して、復活の神に道を得させなければなりません――ヨハネ 11:25．Ⅱコリント 1:9。

E．わたしたちが神から受けたものを神へとささげた後、神は復活の中でそれをわたしたちへと戻してくださいます――ヘブル 11:17-19：

1．わたしたちが神から受けたあらゆる賜物、霊的な祝福、働き、成功は、死を経過して、最終的には復活の中でわたしたちへと戻されなければなりません。

2．もし、わたしたちが神から受けたものを神へとささげ、そしてそれが死を経過するなら、神は復活の中でそれをわたしたちへと戻してくださいます。そしてそれは祝福となり、神の定められた御旨を成就します――創 22:16-18。

３．神の祝福は、いつも復活の中で来ます。もしわたしたちがわたしたちのイサクを神へとささげ、わたしたちのイサクが復活の中でわたしたちへと戻されるなら、わたしたちは神の祝福の下にいます。

Ⅴ．イサクはアブラハムによって神へとささげ返されることによって、増殖して新エルサレムとなります――創 22:16-18. **ローマ** 8:29. **啓** 21:2, 7：

Ａ．新エルサレムは、アブラハムの子孫（砂と星）の究極的完成です――創 22:16-18. ローマ 8:29. 啓 21:2, 7：

１．新エルサレムにおいて、十二部族によって代表される人たちは砂であり、十二使徒によって代表される人たちは星です――12, 14 節。

２．砂と星によって表徴される二種類の人々は、共に建造されて、新エルサレムとなります。

Ｂ．創世記第 22 章において、わたしたちは一つの基本的な原則を見ます。すなわち、神の賜物を増殖させる道は、神がわたしたちに与えてくださったものを神へとささげ返すということです：

１．一人のイサクは、神へとささげられ、復活の中で戻されて、無数の星と砂になりました。

２．もし、わたしたちがわたしたちの一粒を神にささげ、そして神にそれを死に渡すことを許すなら、それは復活の中でわたしたちへと戻されます。そしてわたしたちは神の祝福の下にある増殖を見るでしょう――ヨハネ 12:24。

Ⅵ．モリヤの山、すなわち、神の選びの場所は、最終的にはシオンの山、すなわち、宮の敷地、良き地の中心になりました。わたしたちの霊的な経験において、モリヤの山は最終的にシオンの山になります――創 22:2, 14. **歴代下** 3:1. **ヘブル** 11:17-19. 12:22-23. **啓** 14:1-5：

Ａ．アブラハムは、シオンの山で全焼のささげ物をもって神を礼拝した最初の人でした――1 節。

Ｂ．後に、アブラハムの子孫たち、すなわち、イスラエルの子たちは、神によって命じられ、一年に三度、この場所に行って神を礼拝し、そこにおいて彼らの全焼のささげ物を神へとささげました――申 16:16. 詩 132:13。

Ｃ．今日、アブラハムの霊的な子孫たち、すなわち、新約の信者たちは、シオンの山の上にいます――ヘブル 12:22-23。

Ｄ．最終的に、わたしたちはみなアブラハムと共に、永遠のシオンの山、すなわち、新エルサレムにおいて、神を礼拝します。新エルサレム全体が、シオン、至聖所、神がおられる場所です――啓 14:1-5. 21:22。

Ｅ．主の回復は、シオンを建造することです。シオンとは、キリストのからだの実際であり、新エルサレムにおいて究極的に完成します――14:1. エペソ 4:16. 啓 21:2。

©2026 Living Stream Ministry